

**令和3年度「ゲノム医療実現バイオバンク利活用プログラム  
(次世代医療基盤を支えるゲノム・オミックス解析)」  
事後評価結果**

No.	評価課題名	研究開発 代表者名	所属機関	役職
000-003	COPD の病態解明・新規治療開発のための空間解析を含むマルチオミックスデータベース構築	遠西 大輔	岡山大学	研究教授

**【評価コメント】**

社会的ニーズが高い重要疾患である慢性閉塞性肺疾患（COPD）について、同一患者試料より取得された全ゲノム、全エクソン、全トランスクリプトーム、空間トランスクリプトーム、空間プロテオーム、マイクロバイオーム等の手厚いマルチオミックス解析データに、質の高い画像・臨床データが紐づいている世界的に見ても貴重なデータセットであり、価値が高い。加えて、産業界における利活用を見据えた研究参加同意取得の取り組みを積極的に実施しており、データ利活用の観点からも高く評価できる。構築されたデータセットは COPD の病態解明やバイオマーカーの同定、創薬に貢献できる有用なデータベースであり、産学連携等を通じた幅広い利活用が期待できる。

今後は、データセット数が 40 例と少ないことから、令和 4 年度の事業を含め、更なる積み上げを望む。また、予後予測のために、時系列のオミックスデータ情報や臨床情報の収集を継続することも期待する。